

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 12日は、本州南岸の低気圧は次第に不明瞭となる。低気圧が沿海州付近へ進み、前線が日本海北部へのびる。また、別の前線が東シナ海から西日本付近へのびる。
- 13日は、低気圧が日本海から千島近海へ進み、前線が北日本付近を通過する。また、本州付近の前線が東進しながら南下する。
- 14日は、低気圧が発達しながら千島の東へ進み、高気圧が日本海へ移動する。
- 15日は、高気圧が日本の東へ移動し、低気圧が東シナ海から西日本付近へ進む。
- 16日は、低気圧が本州付近を東進して、前線が東シナ海へのびる。

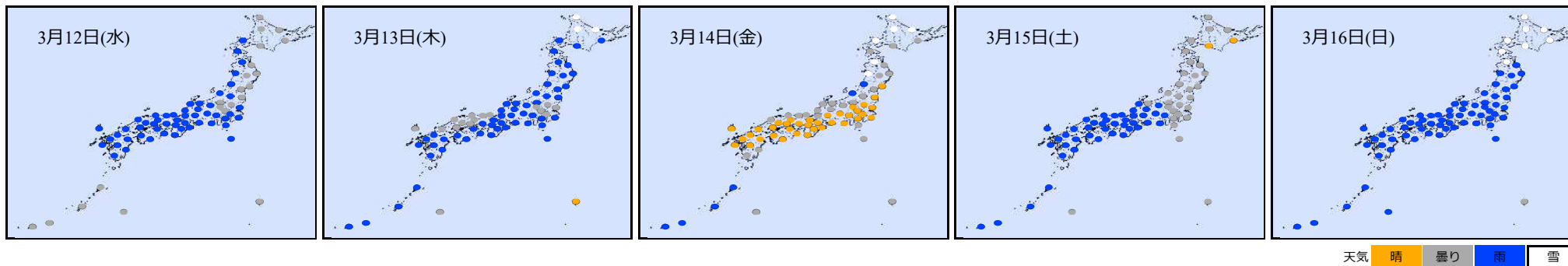
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

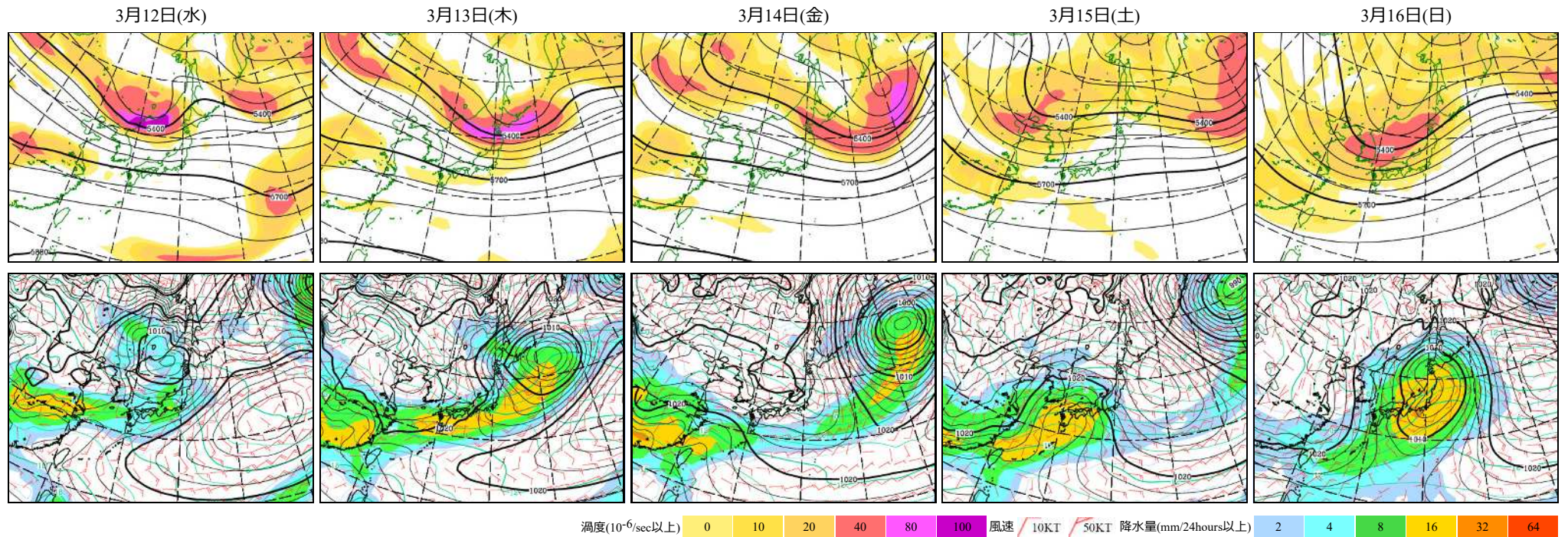
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

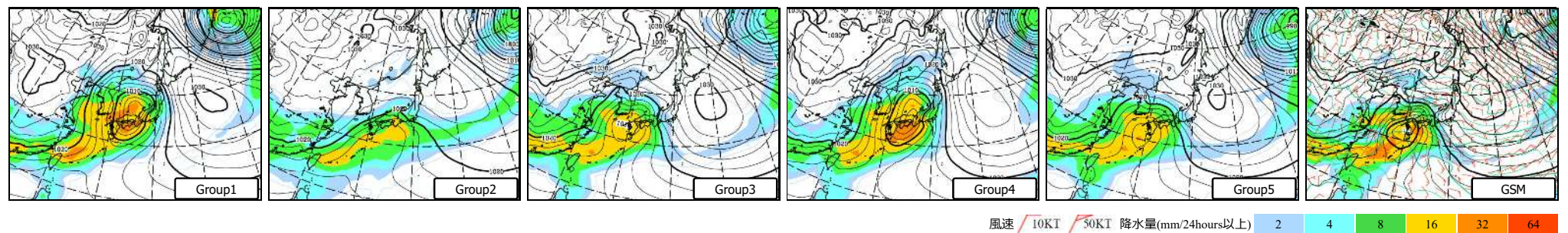


- 北日本と東日本日本海側は、曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 東日本太平洋側と西日本は、14日は晴れる所も多いが、その他は曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆3月15日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、15日に朝鮮半島付近へ進むトラフが早くなり、低気圧の東進も早くなったことに対応して、東日本の降水確率が大きくなった。
- 各モデルの予想は、15日に低気圧が九州付近へ進む予想が多いが、西日本南岸へ早めに進む予想もみられ、降水域の東への広がりには不確実性がある。
- スプレッドは比較的小さいが、期間の後半は5400mの特定高度線にばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。